県岐商だより

THE KEN-GI-SHO SENIOR-HIGH PRESS

No. 90

○発行所 岐阜市則武新屋敷 岐阜県立岐阜商業高等学校PTA https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/gifu-chs/

校外研修 2026･4･27

1年生　リトルワールド

2年生　高山研修

3年生　長島スパーランド

私における不撓不屈

PTA会長　太田　勝広

日頃よりPTA活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。本年度、PTA会長を仰せつかりました太田勝広と申します。先日のPTA総会におきまして、全議案にご信任いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

私も本校の卒業生ではありますが、歴代のPTA会長と比べると、在学中に大きく語れるような華々しいエピソードはありません。ただ、学校生活の中で、何事も自分のことを自分で決断していくことの大切さと、その勇気について学ばせてもらいました。

当時の私は、甲子園に憧れ硬式野球部に所属しておりましたが、思うようにいかず、悩んだ末に軟式野球部へ転部する決断をいたしました。ずっと憧れ、夢を見続けてきた舞台への思いが叶わないと感じた当時は、大きな苦しみや葛藤の中におりました。そんなとき、顧問の先生から「自分の道は自分で考え決断しなさい。その結果は全力で応援する」と声を掛けていただきました。その言葉を励みに、「自分の中に答えがある」と信じ、「自分にとって大切なことは何か」「これから自分ができることは何か」と、とことん自分に向き合い、次の一歩を決断することができました。

「不撓不屈」という言葉には、目標を達成していくという側面だけでなく、私にとっては挫折や絶望感の中にあっても自分を信頼し、自分の中にある力に気づき、自分の強さを再構築していく過程においても感じられるものでありました。そう思えたのは、それまでひたむきに取り組んできたからこそであり、経験に無駄なことなど何一つなく、自分次第でどんな経験も宝や糧に変えていけるものだと実感しました。自分に向き合い自己対話を重ねた経験は、間違いなくその後の私の人生を大きく支えるものとなりました。まさに校訓である、「不撓不屈」の精神を養う経験であり、社会で力強く生きていく礎を築いたと感じております。

本校は、部活動・商業教育・進路達成のいずれにおいてもトップクラスの学校で、生徒の皆さんは高い志を持って入学されていることと思います。その分、壁にぶつかり立ち止まることもあるかもしれません。私自身も一人で乗り越えたわけではなく、家族や友人、先生方にたくさん支えていただきました。そんな時は、味方が大勢いることもこの学校の強みだということを思い出してほしいです。

PTA活動におきましては、価値観の多様化が進む中、時代に合わせた対応を求められています。保護者・教職員・地域が連携を密にし、協働して子どもたちの健全育成に努めるという PTA 活動の意義を大切にしながら、透明性のある運営と、会員の皆様の思いに寄り添った活動を行っていきたいと考えております。

すべての生徒が、この学校生活での学びや経験を通して人格を磨き高めていけること、そして、どんな時代でも対応できる人間力を磨き、社会に巣立っていけることを心より願っています。

今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目次

私における不撓不屈（PTA会長） …… 1
「確かな自己の確立」に向けて（校長） …… 2
感謝の気持ちを忘れずに（PTA副会長） …… 2
PTAの広場（各学年会員） …… 3
大学見学会に参加して …… 4
令和8年度 PTA 総会について …… 4
春季体育大会･GSP …… 4
編集後記（研修活動委員長） …… 4

「確かな自己の確立」に向けて

校長　村上　宏俊

１９９６年にこの世を去った歴史小説家の司馬遼太郎は、亡くなる前に未来の子どもたちに向けて「二十一世紀に生きる君たちへ」という文を書いています。司馬氏は、未来への遺言ともいえるこの文の中で、いつの時代、世界のどこにあっても不変の真理であるとして、「自分に厳しく相手にやさしく」という自己を確立し、いたわりの気持ちをもって助け合うことの重要性について触れています。『君たちは、いつの時代もそうであったように、自己を確立せねばならない。自分に厳しく、相手にはやさしくという自己を。そして、素直でかしこい自己を。二十一世紀においては、とくにそのことが重要である。』『助け合うという気持ちや行動のもとのもとは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることと言ってもいい。この感情が、自己の中でしっかり根づいていけば、他民族へのいたわりという気持ちもわき出てくる。君たちさえ、そういう自己をつくっていけば、二十一世紀は人類が仲よしで暮らせる時代になるにちがいない。』

時代が進み二十一世紀になった今、ＡＩの使用やスマホ・タブレットが日常の風景と化すなど、二十世紀に比べて数倍便利な社会になりましたが、司馬氏の言葉とは逆行するかのような光景が世の中には溢れています。サイバーブリングやサイバークライムと呼ばれる新たないじめや犯罪の増加、世界に目を向ければ、ウクライナ、イラン、ガザ地区での戦闘が長期化し、多くの尊い命が奪われるなど平和とはほど遠い深刻な状態が続いています。こうした今だからこそ、司馬氏の言葉がひときわ心に響きます。

生徒たちは、近い将来、ビジネスリーダーとして社会を担っていく存在になることと思います。「多様性を認め、いたわりの気持ちをもち、助け合いながら生きる」、こうした心のありようは、いかに時代が進もうとも、社会で生きていくためには変わらず欠かせないものであり、ぜひとも、本校でのさまざまな学びや体験を通して体得してほしいと願っています。生徒たちの歩む未来の良し悪しは、一人ひとりの「確かな自己の確立」にかかっています。保護者の皆様におかれましても、ご家庭において機会あるごとにお話しいただけたら幸甚に存じます。

最後になりますが、本校は今後もこれまでと同様に、ＰＴＡ、同窓会、地域の皆様、関係団体の皆様等と協力しながら、教育活動を充実・発展させてまいりますので、引き続きご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

感謝の気持ちを忘れずに

PTA副会長　神谷　岳人

令和８年度ＰＴＡ副会長を務めさせていただいております神谷と申します。

今年度より制服が変わり、新たな県岐商のスタートとなりました。先生や先輩方が今まで築き上げてこられた岐商魂を大切にしながら、新たな伝統を創り上げていただきたいと思います。

私たちは普段、家族や友人、先生、先輩そして地域の皆様に助けられて生活をしています。その存在はあまりにも身近であるため、「やってもらって当たり前」「支えてもらって当たり前」と、つい感じてしまうことがあります。授業や部活動、学校行事などの学校生活は自分独りで成り立つものはほとんどありません。仲間と協力し、お互いを支え合うことで、大きな達成感や喜びを味わうことができます。また、嬉しいときに一緒に喜び、苦しいときに支えてくれる存在は、人生において大きな財産となるはずです。皆さんが安心して生活を送れるのは、こうした多くの方々に囲まれているからこそです。

私も県岐商のＯＢであり、陸上部に所属しておりましたが、日々の辛い練習から何度も挫折しかけたこともありました。そんなとき、励ましてくれた部活動の仲間からの何気ない言葉一つで、何度も救われました。

一人では大変に思うことも、声を掛け合うことで、いつの間にか笑顔に変わり、乗り越えていくことができます。人と人との繋がりを大切にし、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていくことが、より良い人生に繋がっていくのだと思います。在校生の皆さんには、仲間との絆をさらに深め、「一生の友」と呼べる親友をつくり、日々の感謝を忘れず岐商生活を送ってほしいと思います。

さて、私の子どもが所属している本校吹奏楽部は、今年から来年にかけてアメリカで開催される世界最大のパレード、ローズパレードに、アジア・オセアニア代表として出場することが決定いたしました。そのような名誉あるパレードに出場できるのも、先生をはじめ先輩方のおかげであることは言うまでもありません。とても貴重な経験をし、さらに逞しく成長することでしょう。

ＰＴＡを取り巻く環境は年々厳しい時代へと移っておりますが、保護者の皆様と力を合わせ、子どもたちがより良い学校生活を送れるよう努めてまいります。どうぞ今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

PTAの広場

「将来を見据えて」

1年生会員　平田　里美

県立岐阜商業高校といえば、野球や簿記、吹奏楽、それ以外にも沢山思い浮かびます。

姉がこの学校の簿記部に入り、朝練から始まり放課後も部活動の毎日。さらには土曜や祝日も1日。夜中も動画を視聴し問題を解く姿を見て、県岐商は大変だからと志望校から外していた数か月前。

医療系の職業に就きたいという夢を持ち、普通科への進学とギリギリまで迷いましたが、「ただ勉強するのではなく、高校生活の中で資格も取得したい」と思うようになりました。気付けば、姉妹そろって同じ学科、同じ部活を選ぶことになりました。

県岐商は簿記や英検、情報処理などの検定が充実しており、履歴書に記入できる資格を多く取得することができます。これからの高校生活でどれだけの資格を取得できるかは分かりませんが、3年後に「これだけ取得できた。この学校に来てよかった！」と言える高校生活を送ってくれたらいいなと思います。もちろん、親としては、この学校に入学したからには多くの資格を取得してほしいという願いはあります。しかし、高校生活は一度きり。楽しく夢に向かって、一歩ずつ前進していってほしいと思います。

これから始まる高校生活が、人生の糧となるよう、陰ながら見守っていきたいと思います。

日々感謝

2年生会員　山田　恵美

娘が幼稚園から始めた剣道を高校でも続ける決断をし、県岐商の門をくぐって1年が経ちました。

毎日の厳しい稽古に練成会への参加や合宿、その中で検定や定期考査をこなしていくハードなスケジュールは、彼女の想像以上だったようです。弱音や愚痴を口にすることもありますが、高校になって初めて剣道の楽しさや面白さを口にするようになった娘の姿に、彼女の成長を感じるとともに、日々指導してくださる先生方や一緒に切磋琢磨している仲間には感謝の気持ちで一杯です。特に、厳しい稽古を共に頑張る仲間とは、同じ辛さや苦しさを分かり合えるからこそ生まれる絆のようなものが強くなっているように感じ、仲間がいることが彼女をより強くしてくれているのだなあと感謝しています。

4人の子どもを育てていますが、上の子どもたちが大学生や社会人になった今、改めて思うことは、子どもが頑張る姿を間近で見て支え、傍で応援できる期間は本当に限られていて貴重な時間だということです。また、コロナ禍のことを思えば、試合ができることも、会場で応援できることも当たり前ではありません。

末っ子の頑張りを応援できるのもあと2年。インターハイ予選までは1年です。悔いのない戦いをして、仲間と共に晴れやかに笑っている娘がそこにいることを信じて、親としてできるサポートを心がけようと思っています。

今回「県岐商だより」の原稿依頼を受けたことで、私自身や娘の高校生活について見つめ直す良い機会となり、改めて気づかされることが多々ありました。多くの人に支えられ助けられている日々に感謝！

熱い夏を「もっと熱く」

3年生会員　和田　映子

「県岐商で野球がしたい!」

息子とそんな話をした日のことを、今でも覚えています。強豪校での厳しい練習や勉強との両立、体調面や人間関係など、親として不安を感じることもありました。それでも、本人が「挑戦したい」と決めたので、信じて応援しようと思い、今日まで見守ってきました。

気が付けば、もう3年生。もうすぐ高校生活最後の夏を迎えます。苦しいことや悔しい思いを乗り越えながら頑張れたのは、先生方指導者の皆様、そして仲間たちの支えがあったからだと思います。身体的にも精神的にも成長させていただき、感謝しています。

昨年の夏、県岐商硬式野球部が見せてくれた熱い戦いは、多くに人に勇気と感動を与えてくれました。今年の夏も、甲子園出場を目指して一生懸命頑張る姿を楽しみにしています。

また、部活動だけでなく学業など、それぞれの場所で頑張っている県岐商生の様子や、当たり前のように元気な挨拶をしてくれる姿などを見聞きするたびに、保護者として誇らしく感じています。

高校生活は一度きりです。結果も大切ですが、「頑張って良かった」と思える時間を過ごしてほしいと思います。支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、悔いのない高校生活を送ってください。

今年も非常に暑くなりそうです。体調に気を付けながら、熱い夏を「もっと熱く」過ごしてくれることを願っています。がんばれ！県岐商生!!

大学見学会に参加して

進路指導委員長　鷲見　真弓

6月11日、進路指導委員会によるPTA大学見学会を開催いたしました。今回は、北陸地方を代表する国立大学「金沢大学」と、来館者数日本一を誇る「石川県立図書館」を訪問しました。

金沢大学に到着してまず圧倒されたのは、広大な敷地と豊かな自然、そして重厚感のある建物が立ち並ぶ景色です。建物内も広々としており、学習環境が非常に整っているという印象を受けました。また、メニューが豊富な学食も大変魅力的でした。

昼食後は、学生スタッフの皆さんに学内を案内していただきました。私たちのグループを担当してくださった3人の学生は全員が留学経験者で、大変驚きました。金沢大学は手厚い留学サポートに加え、日本人学生と外国人留学生が共同生活を送るシェアハウス型の学生寮があるそうです。半年ごとに入れ替わる留学生と交流することで、学内にいながら「プチ留学」が体験できるため、留学に興味がある人には特におすすめとのことでした。学生の皆さんが自分の意見をしっかり持っている点や学習意欲の高さ、そして何よりもコミュニケーション能力の高さが素晴らしいと感じました。

次に訪れた石川県立図書館は、大学のすぐ近くにありました。4階まで吹き抜けになった開放的な空間と、円を描くように配置された書架やスロープ状の廊下など、その建築美には大変驚かされました。
プライベートでもぜひ、もう一度ゆっくりと訪れてみたいと感じる場所でした。

卒業後の進路は誰もがとても悩むものです。最終的に決断するのは子ども本人ですが、親としては心配が尽きません。今回の見学会を通じて、実際にキャンパスの空気に触れ、保護者の皆様や先生方と有意義な情報交換を行うことができました。実り多い1日を計画・引率してくださった先生方に、心より感謝申し上げます。

令和8年度PTA総会について

(2026.5.1)

先般、PTA総会が会員383名(委任状688名)の出席を得て、無事に開催されました。

皆さんのご協力により、令和7年度事業報告、令和7年度決算報告、会計監査報告、令和8年度役員の選出、名誉会長及び顧問の推薦、令和8年度事業計画、令和8年度予算案の7議案すべてについて承認をいただきました。

また総会終了後、PTA役員として本会の円滑な運営と発展に多大なご貢献をいただき、その功績が顕著であった退任役員の皆様に対し、感謝状および記念品を贈呈いたしました。

PTA会長・副会長としてご尽力いただきました皆様には、衷心より感謝申し上げます。

春季体育大会

(2026.6.5)

昨年度は天候の影響で中止となってしまった球技大会でしたが、今年度は延期となったものの、無事に実施することができました。曇天のもと、グラウンドには生徒たちの躍動する姿や歓喜の声が響きました。

体育委員・バレーボール部の皆さん、お疲れ様でした。

【結果】

女子　1位 3-B　2位 3-K　　男子　1位 3-K　2位 3-F

Global Studies Program

(June9-10,2026)

「グローバルな思考を育む」ことを目的に、講師1名と留学生アシスタント6～7名とともに、各教室でAll Englishでの2日間を過ごしました。

Opening Ceremony

Activity Scenes

編集後記

研修活動委員長　後藤　まどか

「県岐商だより」第90号をお読みいただきありがとうございます。

新年度を迎え、子どもたちは新しい環境の中で学校生活をスタートさせています。期待や緊張を抱えながらも、新たな目標に向かって努力する姿がとても印象的です。授業や部活動、学校行事などさまざまな場面で見られる真剣な表情や、仲間と支え合う姿から、改めて熱い岐商魂や岐商愛を感じました。

これからも学校と保護者が連携しながら、子どもたち一人ひとりが充実した県岐商生活を送れるよう、温かく見守っていきたいと思います。